

第3回大阪フォーリン・ビジネス・ネットワーク・クラブ 会議要旨

- 1 日 時 平成21年1月30日（金） 午後1時から午後3時
- 2 場 所 大阪市公館（大阪市都島区網島町10-35）
- 3 出席者 関西の外資企業のトップ、在阪の海外領事館・商工会議所のメンバー等 40人
大阪市長

4 開催結果

- (1) 挨拶及び講演1 「『元気な大阪』をめざす政策推進ビジョン」について
(大阪市長 平松 邦夫)
- (2) 講演2 「水都大阪2009について」
(水都大阪2009実行委員会事務局 部長 飯田 俊子)

(3) 質疑応答

主な質疑・意見

- ・ 大阪市は、海外の文化組織とも提携しているのか。
- ・ 最近では携帯音楽プレーヤーが普及しているが、まち歩きなどで使える大阪のまちを紹介するソフトがあれば、大阪のまちをもっとPRできるのではないのか。
- ・ サイン表示の多言語化も進める必要があるのではないのか。
- ・ 旧の大阪市博物館は、いつ頃、またどのように活用されるのか。
- ・ 水都大阪2009の事業には、大阪市や大阪府も関わっているのか。
- ・ 日本の信号制御システムに関して、警察の管轄であるが、車のスピードを抑制することに重視している。IT技術も進歩しており、スピードの抑制だけでなく車をスムーズに走らせることもできるのではないのか。
- ・ 市内での移動に関して、自転車の利用や水路を活用すれば道路の混雑も緩和されるのではないのか。
- ・ 日本の学校では、日本人と外国人の生徒が一緒のクラスにならないのはなぜか。
- ・ 異なる文化を持つ者同士の相互理解は難しいが、ネットワークを構築していけば、新しい文化を創り出すことはできると思う。大阪市が異文化交流の活発な都市になると思われるか。
- ・ 道頓堀川的美観向上にはめざましいものがみられるが、大阪市も関わっているのか。
- ・ 水の都として世界的にも有名な都市と比べると、大阪は水辺の景観もまちの中での川の活かし方も異なっている。このような現状で、まちの資源として川を十分に発揮させることができるのか。
- ・ “水都大阪2009”に関連した商業ベースのイベントや、大規模な会議は開催されるのか。

主な説明・応答

- ・ 現在、8つの都市との間で「姉妹・友好都市提携」を行っている。今年、そのうち、上海・サンクトペテルブルグ・ハンブルグ・サンパウロの4都市とは周年事業にあたっている。また、より具体的なビジネス交流を振興していくための組織として「ビジネスパートナー都市」提携も進めている。今後とも、様々な方法を通じて文化事業に関する情報発信を行い、大阪が世界に開かれた都市であることをPRしていきたい。
- ・ 大阪市のウェブサイトの中には、既に携帯音楽プレーヤーにダウンロードできる観光案内のソフトがあるが日本語対応のみであるため、今後、英語版や中国語版、韓国語版など多言語化に対応していきたい。
- ・ サインの多言語表示化についても積極的に取り組んでいきたい。
- ・ 現在検討中であるが、建築年数が経っているため耐震補強が必要であり、実現には多くの時間を要するが、まずは使い途などのプランを固めた上で民間事業者への募集を行ないたい。
- ・ 水都大阪2009に関しては、大阪府や大阪市をはじめ、経済界などから組織される実行委員会の下で一体的に進めている。
- ・ 車をスムーズに流すために、御堂筋などのメインストリートでは一方通行の規制を行っている。他にも1つの信号が青になるば順次に青に変わるといった系統別に信号を制御するシステムもある。
- ・ 大阪は平坦であり、かつコンパクトにまとまっていることから、自転車が利用しやすいまちである。しかしながら、過度な自転車利用が違法駐輪や歩行者との輻輳問題を起こしている。このため、今後は駐輪場の整備や違法駐輪の規制を行う。まだ構想の段階であるが、自転車専用レーンについても、警察の管轄に関わるものの、モデルとなるエリアを設けたい。自転車は健康や環境にも優れた移動手段である一方、大阪では利用者のマナーが低いところもあるので、適切な対策を講じていきたい。
- ・ 水路の活用に関しては、橋が建設された当時は、橋の下と船との間に空間の余裕があり、船の運航が可能であったが、高度経済成長期の工業化の進展に伴い地盤沈下が進んだため、今では空間の余裕も無くなり、船の運航が非常に難しくなっている。しかしながら、水都大阪2009では、できる限り水上交通を行っていきたい。
- ・ 自転車に関連する統計によれば、ここ5年から10年にかけて、駅から歩いて500M以内の人が自転車をよく利用することが分かっている。このため、市長のビジョンにおいても、駅に近い人たちには積極的に歩いてもらうなど放置自転車を減らすための試みも位置づけられている。
- ・ 私立の学校に比べて、公立の学校では外国人の生徒が非常に少ないのが現状である。文部科学省が異文化交流に関して十分な対応がなされていない中で、大阪市もまだ具体的なプランを持ち合わせていない状況にある。しかしながら、異文化交流とは、さまざまな機会を通じてお互いが触れ合うことにより、分かり合えるものであると思っており、そのよう

な機会をもっと増やしていきたい。

- ・以前に比べると、大阪市内においても、様々な国や地域の人々方々が、また、普段の生活レベルにおいても、出会い・交流できる機会が増えてきている。しかしながら、新しい文化を創るための受け皿づくりには時間を要するものであり、行政がその手助けを行うことも必要であるが、実際に生活している人達が自然発生的に実現していくものではないかとも思う。
- ・民間の力によるものが大きいですが、大阪市も遊歩道の整備や、川沿いの建物のエントランスを川側に向くように誘導している。この結果、人の賑わいも創出してきており、水都大阪のモデル地区となっている。
- ・まちの中で川を十分に活かせていないのが現状であり、まず大阪の人々にこれらの問題を考える契機とするためにも“水都大阪2009”の取り組みを進めている。川の活用は非常に時間のかかるものであるが、長期的は可能であると考えている。
- ・交渉中や協議中のものもあり、具体的な内容は控えさせていただくが、2009年を、水の都大阪の発展の年として位置づけて、水をテーマとするイベントや、同じく中之島で開催されるビーチバレー、「御堂筋闊歩（かっぽ）」、ランニングウォークなどの既存イベントとも上手く連携しながら積極的にPRしていきたい。